

高度技術提案型総合評価落札方式実施要領

事業名 苫小牧地区工業用水道配水施設建設事業(中継ポンプ場建設)

令和6年(2024年)4月

北海道企業局

1 適用

本実施要領は、あらかじめ性能、機能、技術等に関する技術提案を受け入れ、入札時に提案に基づいた価格以外の要素と価格を総合的に評価して落札者を決定する高度技術提案型総合評価落札方式を実施する次の事業に適用する。

(1) 事業名

苫小牧地区工業用水道配水施設建設事業(中継ポンプ場建設)

(2) 事業場所

苫小牧市

(3) 事業対象施設規模

計画最大配水量 24,000m³/日

(4) 事業期間

契約締結日の翌日から令和9年(2027年)9月30日まで

2 技術提案の範囲

技術提案の範囲は、次に示す(1)～(5)の評価項目(以下「評価項目」という。)に関するもので、苫小牧地区工業用水道配水施設建設事業(中継ポンプ場建設)要求水準書に定められた要求水準を満たす範囲とする。詳細は、別添「技術提案要領」による。

(1) 中継ポンプ場の設計計画に関する提案

ポンプ場の設計計画については、配水ポンプの設置台数によって、受変電設備の構成や建物の規模に影響を与えることから、これらの設計計画が合理的で優れた提案を求める。

ア【提案要領1-1】配水ポンプの台数に関する提案

配水ポンプの設置台数については、同一能力、又は、異なる能力のポンプの組合せ案を設定し、保守性などに優れた配水ポンプの台数の提案を求める。

提案においては、ポンプの組合せ案ごとに、「ポンプの1台あたりの能力」、「保守性」、「信頼度(配水ポンプ故障時のバックアップの考え方等)」について比較検討を行い提案すること。また、図表などを活用し選定案とその他のポンプの組合せ案の比較を行うこと。なお、選定案のポンプの設計計画の妥当性を確認するため、水撃検討図の提出を求める。(技術提案時に提出した水撃検討図は、契約図書に含めない。)

イ【提案要領1-2】受変電設備などの電気設備の構成に関する提案

電気設備の構成については、配水ポンプの設置台数や能力に影響されることから、様々な電気設備の構成を設定し、保守性などに優れた電気設備の構成の提案を求める。

提案においては、「ポンプ用電動機の電圧」、「保守性」、「信頼度(設備稼働率の向上対策等)」について比較検討を行い提案すること。また、図表などを活用し選定案とその他の電気設備の構成案の比較を行うこと。なお、選定案の電気設備の設計計画の妥当性を確認するため、単線結線図の提出を求める。(技術提案時に提出した単線結線図は、契約図書に含めない。)

ウ【提案要領1-3】建物内部のレイアウトに関する提案

建物内部のレイアウトについては、配水ポンプの台数や受変電設備を設置するスペースのほか、通常の点検や設備の更新・修繕が実施できるスペースを確保した提案を求める。

提案においては、ポンプ室及び電気室に設置される設備を対象に「通常時の点検作業におけるスパー

スの確保」、「更新・修繕作業におけるスペースの確保」、「更新・修繕作業における資機材搬入経路」について、「保守性」、「安全性・機能性」、「その他の観点」から検討を行い提案すること。また、建物内部のレイアウトを確認するため、機器配置図、建屋平面図、建屋断面図の提出を求める。（技術提案時に提出した機器配置図等は、契約図書に含めない。）

(2) 【提案要領2】環境への配慮に関する提案

ゼロカーボン北海道の実現には、カーボンニュートラルの取組が不可欠であることから、建設業における脱炭素への機運醸成を目的として、設計や施工時の具体的な取組について提案を求める。また、施工時の周辺環境への配慮について提案を求める。

提案においては、二酸化炭素の排出削減や吸収等に資する機器等の選定や施工方法に関する提案を求める。なお、二酸化炭素の排出削減や吸収等の量を示すことが可能な場合は、これに係る資料を提出すること。また、工事による騒音・振動・粉じんなど周辺環境への影響の低減・抑制に関する提案を求める。

(3) 【提案要領3】ランニングコストに関する提案

低廉で安定的な工業用水の供給を将来にわたり続けて行くには運転管理費の削減を図る必要があり、評価項目(1)アからウの技術提案に基づく総合的なランニングコストの提案を求める。

提案においては、当局が指定する運転条件における運転コスト、主要設備（ポンプ設備、自家発電機設備、受変電設備、電気・計装設備、インバーター盤、換気設備、床排水設備、建物）の定期修繕・更新コストについて、供用開始後24年間のランニングコストの提案を求める。なお、修繕費用、更新費用については、実施内容、概算工事費等の説明資料、算定根拠資料の提出を求める。

(4) 【提案要領4】地域への情報発信に関する提案

中継ポンプ場建設事業を円滑に推進するためには、地域の理解が重要であることから、事業目的などについて、地域への情報発信の方法の提案を求める。

提案においては、工業用水道事業や中継ポンプ場建設に関する地域への情報発信の具体的な方法について提案を求める。

(5) 【提案要領5】地域精通度に関する事項

地域事情に精通している技術者等を安定的に確保することで、当該事業を円滑に実施することができ、緊急時対応や維持管理の担い手の育成などが期待できることから、地域の企業や技術者等の活用計画に関する具体的な提案を求める。

提案においては、建築工事、電気工事、機械器具設置工事における苦小牧市又は隣接市町等の企業や技術者等の活用計画の提案を求める。

3 技術提案の提出

(1) 当該競争入札に参加しようとする者（以下「入札参加希望者」という。）は、評価項目について次に基づき必ず技術提案を行うものとする。

- ・評価項目(1)、(2)、(4)については、別記1-1号様式により技術提案を行うこと。
- ・評価項目(3)については、別記1-2号様式により技術提案を行うこと。また、記述による補足説明を要する場合は、別記1-1号様式に記入し提出すること。
- ・評価項目(5)については、別記1-3号様式により技術提案を行うこと。
- ・工業所有権等を含む技術提案の場合は、その取扱いに関する事項を必ず記入すること。
- ・技術提案が採用された場合に留意すべき事項がある場合は、その内容を記入すること。

- ・技術提案を補足するためのカタログ、技術資料等を提出すること。
- ・技術提案書の内容に基づき算出した見積書(別記2号様式)、設計内訳書(別記3-1～6号様式)を提出することとし、作成にあたっては見積書等作成要領を参照すること。なお、当該見積書及び設計内訳書等は、支出負担行為担当者の予定価格算出に用いることがある。

※技術提案書提出期限：令和6年(2024年)8月30日(金) 17時まで 提出先：北海道企業局総務課

- (2) 支出負担行為担当者(北海道規則(昭和45年北海道規則第30号。)第204条の19及び第204条の20の規定に基づき公有財産取得事務の依頼を受けた部長を含む。以下同じ。)は、必要に応じて、提出された技術提案書等に関する追加資料、図書及びその他必要な書類について当該技術提案を行った入札参加希望者(以下「提案者」という。)に求めることができるものとする。
- (3) 技術提案に関するすべての費用は、提案者の負担とする。
- (4) 技術提案に関する書類等は、返却しない。
- (5) 支出負担行為担当者は、提出された技術提案について、技術提案に対する確認、改善に関する対話(以下「技術対話」という。)を行う機会を与えることとする。技術対話の開催日時及び場所等については、別途通知する。
- (6) 支出負担行為担当者は、技術提案書の内容に要求水準や施工条件を満たさない事項、その他事業実施の妨げになる提案がある場合には、技術対話において提案者の意図を確認した上で必要に応じて改善を要請し、改善された技術提案の提出を求める。
- (7) 技術対話後、別途通知する日までに、北海道企業局総務課に改善した技術提案書及び見積書(別記2号様式)、設計内訳書(別記3-1～6号様式)を提出すること。なお、当該見積書及び設計内訳書は、支出負担行為担当者の予定価格算出に用いることがある。

4 技術提案の評価

- (1) 技術提案は、北海道企業局総合評価審査委員会において、その実現性や効果等を総合的に評価する。
- (2) 技術提案の審査において、必要があると認めるときは、追加資料や説明を求める場合がある。
- (3) 見積書及び設計内訳書の内容についても、技術提案書と併せて実現性等の審査を行う。
- (4) 技術提案の審査において、要求水準を満たさないことが明らかな技術提案については欠格とする。
- (5) 評価は、評価項目で求める内容について評価するものとし、評価項目で求める内容以上の提案は、評価対象としない。なお、評価項目で求める内容以上の技術提案についても履行の義務は発生する。
- (6) 同一と見なされる内容を複数提案している場合、重複して評価はしない。

5 技術提案の採否に関する審査結果の通知等

- (1) 支出負担行為担当者は、技術提案の採否に関する審査結果を提案者に通知するものとし、技術提案を適正と認めず採用しないときは、その理由を付して通知するものとする。
なお、技術提案の審査の結果、欠格となった場合についても、当該通知によりその旨を通知するものとする。
- (2) 技術提案の内容については、原則、非公開とする。

6 入札の方法等

5の(1)により、採用の通知を受けた提案者は、採用された技術提案及び当該技術提案に基づきより積算した価格をもって入札書、事業費内訳書を提出しなければならない。

7 落札者の決定方法等

- (1) 落札者は、別添「落札者決定基準」により決定する。
- (2) 開札時においては、予定価格の制限の範囲内の価格をもって入札した者及びその入札価格を入札参加者に通知することとし、公表を行う。
- (3) 落札者の決定に当たっては、低入札価格調査制度等を適用する。

8 技術提案の保護

技術提案については、その後の工事において、その内容が一般的に使用されている状態となった場合は、当局が無償で使用できるものとする。ただし、工業所有権等の排他的権利を有する事項が含まれる技術提案については、この限りではない。

9 責任の所在とペナルティー

- (1) 支出負担行為担当者が技術提案を適正と認め、工事施工においてこれを採用した場合においても、当該技術提案に係る工事目的物の性能、機能及び品質については、落札者が保証するものとする。
- (2) 落札者は、技術提案に係る部分の工事の施工に当たり、特許権等の対象となっている工事材料、施工方法等を使用するときは、その使用に関する一切の責任を負うものとする。
- (3) 落札者の責により、技術提案を履行できない場合は、次の式により求めた点数を工事成績評定点から減点するものとする。また、コンソーシアム構成員のうち、代表者及び施工業務を担当した者について、事業完了の翌年から4年間、当局の総合評価落札方式の発注工事において、工事施工成績(当事業以外の工事を含む)の平均点から、次の式で求めた点数を減点する。なお、現場条件の変更や天候不良などの不測の事態により作業が中断又は中止するなど、技術提案内容に基づく施工ができないなど特別な事情が発生した場合は、その都度支出負担行為担当者と協議すること。

工事成績評定点の減点数^{※1}＝

$20(\text{点}) \times (\text{各評価項目の加算点の合計} / 55\text{点}) \times (1 - \text{達成率}^{\text{※2}})$

※1 評価項目毎の減点数は、小数第4位を四捨五入して小数第3位止めとする。

※2 達成率は、小数第2位を四捨五入して小数第1位止めとする。

達成率 ＝ (各評価項目の採用された技術提案の実施数) / (総合評価時における各評価項目の技術提案の採用合計数)

- (4) 落札者の責により、技術提案を履行できなかった場合において、再度の施工が困難であるとき、あるいは合理的でないとき、発注者は、契約金額の減額及び損害賠償の請求等を行うことができるものとする。

10 その他

- (1) 技術提案の改善過程については、本事業の契約締結後、速やかに評価結果とともに、その概要を公表する。公表内容は、各提案者に対する発注者からの改善要請事項の概要、各提案者の再提出における改善状況の概要とし、具体的内容に係る部分は公表しない。なお、提案者の知的財産を保護する観点から、各

者の了解を得たうえで公表する。

- (2) 技術提案書は封書の上、事業名及び提出者名を表記し、紙により正副2部提出すること。
- (3) 技術提案した技術については、用語の解説並びに引用した書籍等の名称及びページを明記すること。
- (4) 補足説明するためのカタログ等を提出する際には、技術提案項目毎に整理して提出すること。
- (5) 技術提案書の提出においては、次の事項に基づき電子データを提出すること。

① 上記提出書類の電子データとカタログをPDF形式にまとめたものを合わせて別途2枚のCD[※]に収めて提出すること(企業名を記載したもの1枚、記載しないもの1枚)。ただし、当該ファイルの保存時に失われる機能は、作成時に使用しないこと。

② 提出する2枚のCDについては、次のとおりファイルを分けて提出すること。

<CD-1> 企業名を記載したもの

- 技術提案書電子データ 1つの提案につき1ファイルとする。
- 技術提案書PDFデータ 1つの提案につき1ファイルとする。
- その他カタログPDF
- 見積書及び設計内訳書
- 見積書及び設計内訳書添付資料

<CD-2> 企業名を記載しないもの

- 技術提案書電子データ 1つの提案につき1ファイルとする。
- 技術提案書PDFデータ 1つの提案につき1ファイルとする。
- その他カタログPDF
- 見積書及び設計内訳書
- 見積書及び設計内訳書添付資料
- 当局が配布した RIBC2 単価ファイルを用いて作成した RIBC2 内訳ファイル
ファイル名は、「RIBC2 データ.utib」とする。

技術提案要領

技術提案要領

苫小牧地区工業用水道配水施設建設事業(中継ポンプ場建設)

評価項目(1) 中継ポンプ場の設計計画に関する提案

【項目設定の趣旨】

ポンプ場の設計計画については、配水ポンプの設置台数によって、受変電設備の構成や建物の規模に影響を与えることから、これらの設計計画が合理的で優れた提案を求める。

【提案を求める内容】

ア 配水ポンプの台数に関する提案【配点:10点】

配水ポンプの設置台数については、同一能力、又は、異なる能力のポンプの組合せ案を設定し、保守性などに優れた配水ポンプの台数の提案を求める。

提案においては、ポンプの組合せ案ごとに、「ポンプの1台あたりの能力」、「保守性」、「信頼度(配水ポンプ故障時のバックアップの考え方等)」について比較検討を行い提案すること。また、図表などを活用し選定案とその他のポンプの組合せ案の比較を行うこと。なお、選定案のポンプの設計計画の妥当性を確認するため、水撃検討図の提出を求める。(技術提案時に提出した水撃検討図は、契約図書に含めない。)

(注)本提案に基づき、「評価項目(3)ランニングコストに関する提案」において、ランニングコストの算定を求める。

注1)提案は、図表等を含め、別記1ー1号様式(A4版)に、記述(文字の大きさは9ポイント以上)することとし、技術提案書は、最大3葉までとする。

注2)上記注1)以外に、必要に応じて提案を補足説明するためのカタログ等の提出は認める。

注3)要求水準を満たさないものについては、技術提案とは認めない。

注4)本工事施工における条件は、要求水準書に示すとおりであり参考にする。

注5)技術提案の記述にあたっては、「必要に応じて・・。」「状況に応じて・・。」などの曖昧な表現は避けること。

注6)技術提案の内容と、提案を求める内容が異なっている場合は評価しない。

注7)技術ダンピングとなる過度なコスト負担を要する技術提案は避けること。

注8)仕様書、示方書、指針において、「～しなければならない。～」を標準とする。」となっているものは評価しない。

技術提案要領

苫小牧地区工業用水道配水施設建設事業(中継ポンプ場建設)

評価項目(1) 中継ポンプ場の設計計画に関する提案

【項目設定の趣旨】

ポンプ場の設計計画については、配水ポンプの設置台数によって、受変電設備の構成や建物の規模に影響を与えることから、これらの設計計画が合理的で優れた提案を求める。

【提案を求める内容】

イ 受変電設備などの電気設備の構成に関する提案【配点:10点】

電気設備の構成については、配水ポンプの設置台数や能力に影響されることから、様々な電気設備の構成を設定し、保守性などに優れた電気設備の構成の提案を求める。

提案においては、「ポンプ用電動機の電圧」、「保守性」、「信頼度(設備稼働率の向上対策等)」について比較検討を行い提案すること。また、図表などを活用し選定案とその他の電気設備の構成案の比較を行うこと。なお、選定案の電気設備の設計計画の妥当性を確認するため、単線結線図の提出を求める。(技術提案時に提出した単線結線図は、契約図書に含めない。)

(注)本提案に基づき、「評価項目(3)ランニングコストに関する提案」において、ランニングコストの算定を求める。

注1)提案は、図表等を含め、別記1-1号様式(A4版)に、記述(文字の大きさは9ポイント以上)することとし、技術提案書は、最大3葉までとする。

注2)上記注1)以外に、必要に応じて提案を補足説明するためのカタログ等の提出は認める。

注3)要求水準を満たさないものについては、技術提案とは認めない。

注4)本工事施工における条件は、要求水準書に示すとおりであり参考にすること。

注5)技術提案の記述にあたっては、「必要に応じて・・。」「状況に応じて・・。」などの曖昧な表現は避けること。

注6)技術提案の内容と、提案を求める内容が異なっている場合は評価しない。

注7)技術ダンピングとなる過度なコスト負担を要する技術提案は避けること。

注8)仕様書、示方書、指針において、「～しなければならない。～を標準とする。」となっているものは評価しない。

技術提案要領

苫小牧地区工業用水道配水施設建設事業(中継ポンプ場建設)

評価項目(1) 中継ポンプ場の設計計画に関する提案

【項目設定の趣旨】

ポンプ場の設計計画については、配水ポンプの設置台数によって、受変電設備の構成や建物の規模に影響を与えることから、これらの設計計画が合理的で優れた提案を求める。

【提案を求める内容】

ウ 建物内部のレイアウトに関する提案【配点:10点】

建物内部のレイアウトについては、配水ポンプの台数や受変電設備を設置するスペースのほか、通常の点検や設備の更新・修繕が実施できるスペースを確保した提案を求める。

提案においては、ポンプ室及び電気室に設置される設備を対象に「通常時の点検作業におけるスペースの確保」、「更新・修繕作業におけるスペースの確保」、「更新・修繕作業における資機材搬入経路」について、「保守性」、「安全性・機能性」、「その他の観点」から検討を行い提案すること。また、建物内部のレイアウトを確認するため、機器配置図、建屋平面図、建屋断面図の提出を求める。(技術提案時に提出した機器配置図等は、契約図書に含めない。)

(注)本提案に基づき、「評価項目(3)ランニングコストに関する提案」において、ランニングコストの算定を求める。

注1)提案は、図表等を含め、別記1-1号様式(A4版)に、記述(文字の大きさは9ポイント以上)することとし、技術提案書は、最大3葉までとする。

注2)上記注1)以外に、必要に応じて提案を補足説明するためのカタログ等の提出は認める。

注3)要求水準を満たさないものについては、技術提案とは認めない。

注4)本工事施工における条件は、要求水準書に示すとおりであり参考にすること。

注5)技術提案の記述にあたっては、「必要に応じて・・。」「状況に応じて・・。」などの曖昧な表現は避けること。

注6)技術提案の内容と、提案を求める内容が異なっている場合は評価しない。

注7)技術ダンピングとなる過度なコスト負担を要する技術提案は避けること。

注8)仕様書、示方書、指針において、「～しなければならない。～を標準とする。」となっているものは評価しない。

技術提案要領

苫小牧地区工業用水道配水施設建設事業(中継ポンプ場建設)

評価項目(2) 環境への配慮に関する提案【配点:5点】

【項目設定の趣旨】

ゼロカーボン北海道の実現には、カーボンニュートラルの取組が不可避であることから、建設業における脱炭素への機運醸成を目的として、設計や施工時の具体的な取組について提案を求める。また、施工時の周辺環境への配慮について提案を求める。

【提案を求める内容】

提案においては、二酸化炭素の排出削減や吸収等に資する機器等の選定や施工方法に関する提案を求める。なお、二酸化炭素の排出削減や吸収等の量を示すことが可能な場合は、これに係る資料を提出すること。また、工事による騒音・振動・粉じんなど周辺環境への影響の低減・抑制に関する提案を求める。

(注)ポンプ場に必要とされる設備を逸脱する設備を追加する提案(過度なオーバースペック)は認めない。

(注)室内照明のLED化(要求水準)や排出ガス対策型建設機械の使用(北海道土木工事共通仕様書)などは、標準的な取組と判断し、技術加算点の加算は行わない。

注1)提案は、図表等を含め、別記1-1号様式(A4版)に、記述(文字の大きさは9ポイント以上)することし、技術提案書は、最大1葉までとする。

注2)上記注1)以外に、必要に応じて提案を補足説明するためのカタログ等の提出は認める。

注3)要求水準を満たさないものについては、技術提案とは認めない。

注4)本工事施工における条件は、要求水準書に示すとおりであり参考にすること。

注5)技術提案の記述にあたっては、「必要に応じて・・・」「状況に応じて・・・」などの曖昧な表現は避けること。

注6)技術提案の内容と、提案を求める内容が異なっている場合は評価しない。

注7)技術ダンプングとなる過度なコスト負担を要する技術提案は避けること。

注8)仕様書、示方書、指針において、「～しなければならない。～を標準とする。」となっているものは評価しない。

技術提案要領

苫小牧地区工業用水道配水施設建設事業(中継ポンプ場建設)

評価項目(3) ランニングコストに関する提案【配点:15点】

【項目設定の趣旨】

低廉で安定的な工業用水の供給を将来にわたり続けて行くには運転管理費の削減を図る必要があり、評価項目(1)アからウの技術提案に基づく総合的なランニングコストの提案を求める。

【提案を求める内容】

提案においては、当局が指定する運転条件における運転コスト、主要設備(ポンプ設備、自家発電機設備、受変電設備、電気・計装設備、インバーター盤、換気設備、床排水設備、建物)の定期修繕・更新コストについて、供用開始後24年間のランニングコストの提案を求める。なお、修繕費用、更新費用については、実施内容、概算工事費等の説明資料、算定根拠資料の提出を求める。

注1)提案は、図表等を含め、別記1-2号様式(A4 版)に、記述(文字の大きさは9ポイント以上)すること。また、記述による補足説明を要する場合は、別記1-1号様式(A4版)に記入し提出すること。

注2)上記注1)以外に、必要に応じて提案を補足説明するためのカタログ等の提出は認める。

注3)要求水準を満たさないものについては、技術提案とは認めない。

注4)本工事施工における条件は、要求水準書に示すとおりであり参考にする。

注5)技術提案の記述にあたっては、「必要に応じて・・」「状況に応じて・・」などの曖昧な表現は避けること。

注6)技術提案の内容と、提案を求める内容が異なっている場合は評価しない。

注7)技術ダンピングとなる過度なコスト負担を要する技術提案は避けること。

注8)仕様書、示方書、指針において、「～しなければならない。～を標準とする。」となっているものは評価しない。

評価項目(3) ランニングコストに関する提案(補足説明)

1. ランニングコストの算定における基本事項

- ・本算定は、供用開始後のコストの保証を求めるものではない。
- ・コスト計算は、計画最大配水量(24,000m³/日)で連続運転した場合のコストとする。
- ・計上額は、令和6年8月1日時点の単価、価格とし、物価上昇は考慮しない。また、消費税を含まない額とし、工事による対応となるものは、諸経費を含む概算工事費を計上すること。
- ・提案は、別記1-2号様式により提案することとし、別記1-1号様式により、算定に係る根拠を記載し、必要に応じ算定根拠資料を添付すること。
- ・電力料金の算出は、令和6年8月1日時点の北海道電力(株)の高圧電力契約(Ⅲ型一般料金、力率95%)とし、燃料調整単価、再エネ賦課金等の調整は行わない。
- ・油脂代は、令和6年8月1日時点の北海道建設部胆振総合振興局室蘭建設管理部管内単価表の単価とする。
- ・提案者間の算定条件に差異が認められた場合、当局において、条件等を見直す(統一する)場合がある。

2. 管理費用【A】について

○電気料金

- ・技術提案内容、技術提案時点の任意設計において、想定する電気料金を提示すること。
- ・契約電力(kW)、年間使用量(kWh)を必ず明示することとし、1年あたりの算定日数は、364日(自家発電設備による運転のため年間日数を1日減)とする。
- ・算定する負荷設備は、「ポンプ設備」、「暖房設備」、「冷房設備」及び「換気設備」の4設備とする。
- ・暖房設備は、冬期間(6カ月)のみ稼働することとし、想定する設備容量の65%の稼働率により電力料金を計算すること。
- ・冷房設備は、夏期間(6カ月)のみ稼働することとし、想定する設備容量の65%の稼働率により電力料金を計算すること。
- ・換気設備は、1年間稼働することとし、想定する設備容量の65%の稼働率により電力料金を計算すること。

○油脂代

- ・自家発電設備は、冬期間に1日(24 時間)連続稼働することを条件とし、必ず燃料使用量を提示すること。

3. 修繕費用【B】について

○配水ポンプ設備オーバーホール費用

- ・4万時間ごとにオーバーホールを実施することとし、技術提案に基づく配水ポンプ台数を考慮した周期で経費を計上すること。
- ・オーバーホールでの修繕内容は、納入するポンプ製作者の推奨事項とする。

○自家発電設備オーバーホール費用

- ・12年ごとにオーバーホールを実施することとする。
- ・オーバーホールでの修繕内容は、納入する自家発電設備製作者の推奨事項とする。

- ・オーバーホールの実施にあたり必要となる仮設費(代替発電機設備、負荷試験設備)を計上すること。

○電気設備(受変電設備、電気・計装設備)大規模修繕

- ・10年ごとに必要となる定期修繕費用を計上すること。ただし、インバーター盤の修繕費用は含めないこととする。
- ・修繕内容は、取替えが必要となる内部部品の取替えを基本とし、10 年未満で必要となる部品は10年目に含めるものとする。また、修繕内容や取替周期、費用については根拠資料を提出すること。

○機械設備(換気設備、床排水設備)大規模修繕

- ・10年ごとに必要となる定期修繕費用を計上すること。
- ・修繕内容は、取替えが必要となる内部部品の取替えを基本とし、10 年未満で必要となる部品は10年目に含めるものとする。また、修繕内容や取替周期、費用については根拠資料を提出すること。

○建物修繕(外壁塗装、屋根防水塗装)

- ・塗装周期を 10 年とし、塗装に必要な費用を計上すること。費用には、足場などの仮設工事費を計上すること。
- ・耐久性の高い塗料を使用し10年以上の塗装周期が想定される場合は、使用する塗料の技術資料の添付により周期の変更を許可する。

4. 更新費用【C】について

○配水ポンプ設備更新費用

- ・20年ごとに更新することとし更新費用を計上すること。
- ・更新において必要となる仮設費を含め、内訳を根拠資料に明示すること。

○自家発電設備更新費用

- ・24年目に更新することとし更新費用を計上すること。
- ・更新において必要となる仮設費を含め、内訳を根拠資料に明示すること。

○電気設備(受変電設備、電気・計装設備)更新費用

- ・インバーター盤を除き、20年目に更新することとし更新費用を計上すること。
- ・更新において必要となる仮設費を含め、内訳を根拠資料に明示すること。

○インバーター盤更新費用

- ・10年ごとに更新することとし更新費用を計上すること。
- ・更新において必要となる仮設費を含め、内訳を根拠資料に明示すること。

○機械設備(換気設備、床排水設備)更新費用

- ・20年目に更新することとし更新費用を計上すること。
- ・更新において必要となる仮設費を含め、内訳を根拠資料に明示すること。

ランニングコストに関する提案に係る根拠資料の例

根拠資料の例

○管理費用【A】

- ・電気料金算定根拠資料
- ・油脂代算定根拠資料

○修繕費用【B】

- ・配水ポンプ設備オーバーホール実施内容、類似工事实績
- ・自家発電設備オーバーホール実施内容、類似工事实績
仮設費(代替発電設備、負荷試験設備)費用算定に関する資料
- ・電気設備大規模修繕内容、類似工事实績(受変電設備、電気・計装設備、※インバーター盤は除く)
- ・機械設備大規模修繕内容、類似工事实績(換気設備、床配水ポンプ)
- ・建物修繕(外部塗装、屋根防水塗装)、類似工事实績(m^2 当たり施工単価)
- ・年別修繕費一覧表(年別の修繕対象、工事費を表形式に集約した資料) など

○更新費用【C】

- ・配水ポンプ設備更新内容、類似工事实績
- ・自家発電設備更新内容、類似工事实績
仮設費(代替発電設備、負荷試験設備)費用算定に関する資料
- ・電気設備更新内容、類似工事实績(受変電設備、電気・計装設備)
- ・インバーター盤更新内容、類似工事实績
- ・機械設備更新内容、類似工事实績(換気設備、床配水ポンプ)
- ・年別更新費一覧表(年別の更新対象、工事費を表形式に集約した資料) など

技術提案要領

苫小牧地区工業用水道配水施設建設事業(中継ポンプ場建設)

評価項目(4) 地域への情報発信に関する提案【配点:1点】

【項目設定の趣旨】

中継ポンプ場建設事業を円滑に推進するためには、地域の理解が重要であることから、事業目的などについて、**地域への情報発信の方法の提案**を求める。

【提案を求める内容】

提案においては、工業用水道事業や中継ポンプ場建設に関する**地域への情報発信の具体的な方法**について**提案**を求める。

注1)提案は、図表等を含め、別記1-1号様式(A4版)に、記述(文字の大きさは9ポイント以上)することとし、
技術提案書は、最大1葉までとする。

注2)上記注1)以外に、必要に応じて提案を補足説明するためのカタログ等の提出は認める。

注3)要求水準を満たさないものについては、技術提案とは認めない。

注4)本工事施工における条件は、要求水準書に示すとおりであり参考にすること。

注5)技術提案の記述にあたっては、「必要に応じて・・。」「状況に応じて・・。」などの曖昧な表現は避けること。

注6)技術提案の内容と、提案を求める内容が異なっている場合は評価しない。

注7)技術ダンピングとなる過度なコスト負担を要する技術提案は避けること。

注8)仕様書、示方書、指針において、「～しなければならない。～を標準とする。」となっているものは評価しない。

技術提案要領

苫小牧地区工業用水道配水施設建設事業(中継ポンプ場建設)

評価項目(5) 地域精通度に関する事項【配点:4点】

【項目設定の趣旨】

地域事情に精通している技術者等を安定的に確保することで、当該事業を円滑に実施することができ、緊急時対応や維持管理の担い手の育成などが期待できることから、**地域の企業や技術者等の活用計画に関する具体的な提案**を求める。

【提案を求める内容】

提案においては、**建築工事、電気工事、機械器具設置工事**における苫小牧市又は隣接市町等の企業や技術者等の活用計画の提案を求める。

(注)地域の企業の活用計画には、苫小牧市又は隣接市町に主たる営業所を有する者の下請の活用について記述すること。

(注)地域の技術者等の活用計画には、苫小牧市又は隣接市町に住民登録があること。また、「技術者等」とは、技術者・技能士・基幹技能者をいう。

(注)胆振・石狩管内に主たる営業所を有する企業又は技術者等の活用計画も評価対象とするが、より緊急時対応などの維持管理の担い手の育成に資する提案を優先する。

注1)提案は、図表等を含め、別記1－3号様式(A4版)に、記述(文字の大きさは9ポイント以上)すること。

注2)上記注1)以外に、必要に応じて提案を補足説明するためのカタログ等の提出は認める。

注3)要求水準を満たさないものについては、技術提案とは認めない。

注4)本工事施工における条件は、要求水準書に示すとおりであり参考にすること。

注5)技術提案の記述にあたっては、「必要に応じて・・」「状況に応じて・・」などの曖昧な表現は避けること。

注6)技術提案の内容と、提案を求める内容が異なっている場合は評価しない。

注7)技術ダンピングとなる過度なコスト負担を要する技術提案は避けること。

注8)仕様書、示方書、指針において、「～しなければならない。～を標準とする。」となっているものは評価しない。

技術提案項目一覧

評価項目		技術提案書様式 (最大枚数)	加算の 上限値
設 計	(1) 中継ポンプ場の設計計画に関する提案	—	30.0
	ア 配水ポンプの台数に関する提案	別記1-1号様式 (最大3葉)	10.0
	イ 受変電設備などの電気設備の構成に関する提案	別記1-1号様式 (最大3葉)	10.0
	ウ 建物内部のレイアウトに関する提案	別記1-1号様式 (最大3葉)	10.0
施 工	(2) 環境への配慮に関する提案	別記1-1号様式 (最大1葉)	5.0
コ ス ト	(3) ランニングコストに関する提案	別記1-2号様式 1葉 補足説明 別記1-1号様式	15.0
そ の 他	(4) 地域への情報発信に関する提案	別記1-1号様式 (最大1葉)	1.0
	(5) 地域精通度に関する事項	別記1-3号様式 1葉	4.0
合 計		—	55.0

技 術 提 案 書

評価項目 (●) ● : ●●●●

提案者 : ●●●●

担当者氏名 : _____

連絡先 : _____

技術提案●

※ 本様式とは別に具体的内容の記入に伴う資料（カタログ等）を添付することができる。

※ 提案に新技術・新工法がある場合には、NETIS 番号・特許番号を明記のうえ、カタログ等を添付すること。

なお、添付資料がない場合は、評価しない場合がある。

技 術 提 案 書

評価項目（3）ランニングコストに関する提案

提案者：

担当者氏名：

連絡先：

項 目	提 案		
管理費用 【A】	経費内訳		
	○電気料金		99,999 千円
	契約電力	99,999 kW	
	年間使用量	99,999 kWh	
	○油脂代【自家発電設備】		99,999 千円
	年間使用量	99,999 リットル	A 重油
	合計	199,998	千円
修繕費用 【B】	経費内訳		
	○1台あたり配水ポンプ設備オーバーホール（4万時間ごと）	99,999	千円
	○〔1台あたり配水ポンプ設備オーバーホール（4万時間ごと）〕	0	千円〕
	○自家発電設備オーバーホール（12年ごと）	99,999	千円
	仮設費（代替発電設備、負荷試験設備）	99,999	千円
	○電気設備大規模修繕（10年ごと）	99,999	千円
	○機械設備大規模修繕（10年ごと）	99,999	千円
	○建物修繕〔外部塗装、屋根防水塗装〕（10年ごと）	99,999	千円
	合計	599,994	千円
※〔〕付の配水ポンプ設備オーバーホール費用は、異なる能力のポンプの組合せを提案した場合に使用すること。			
更新費用 【C】	経費内訳		
	○1台あたり配水ポンプ設備更新（20年ごと）	99,999	千円
	○〔1台あたり配水ポンプ設備更新（20年ごと）〕	0	千円〕
	○自家発電設備更新（24年ごと）	99,999	千円
	仮設費（代替発電設備、負荷試験設備等）	99,999	千円
	○電気設備更新（20年ごと）	99,999	千円
	○インバーター盤更新（10年ごと）	99,999	千円
	○機械設備更新（20年ごと）	99,999	千円
	合計	599,994	千円
※〔〕付の配水ポンプ設備更新費用は、異なる能力のポンプの組合せを提案した場合に使用すること。			
年度毎費用	管理費用【A】	修繕費用【B】	更新費用【C】
初年度	199,998 千円	千円	千円
2年目	199,998 千円	千円	千円
3年目	199,998 千円	千円	千円
4年目	199,998 千円	千円	千円
5年目	199,998 千円	千円	千円
6年目	199,998 千円	千円	千円
7年目	199,998 千円	千円	千円
8年目	199,998 千円	千円	千円
9年目	199,998 千円	千円	千円
10年目	199,998 千円	千円	千円
11年目	199,998 千円	千円	千円
12年目	199,998 千円	千円	千円
13年目	199,998 千円	千円	千円
14年目	199,998 千円	千円	千円
15年目	199,998 千円	千円	千円
16年目	199,998 千円	千円	千円
17年目	199,998 千円	千円	千円
18年目	199,998 千円	千円	千円
19年目	199,998 千円	千円	千円
20年目	199,998 千円	千円	千円
21年目	199,998 千円	千円	千円
22年目	199,998 千円	千円	千円
23年目	199,998 千円	千円	千円
24年目	199,998 千円	千円	千円
合計	4,799,952 千円	0 千円	0 千円
		合計	4,799,952 千円

技 術 提 案 書

評価項目（５）：地域精通度に関する事項

提案者：●●●●

担当者氏名：_____

連絡先：_____

技術提案 5

○下請・技術者等の活用計画

	下請・技術者等の活用計画
1	<input type="checkbox"/> 建築工事 <input type="checkbox"/> 電気工事 <input type="checkbox"/> 機械器具設置工事
2	<input type="checkbox"/> 建築工事 <input type="checkbox"/> 電気工事 <input type="checkbox"/> 機械器具設置工事
3	<input type="checkbox"/> 建築工事 <input type="checkbox"/> 電気工事 <input type="checkbox"/> 機械器具設置工事
4	<input type="checkbox"/> 建築工事 <input type="checkbox"/> 電気工事 <input type="checkbox"/> 機械器具設置工事
5	<input type="checkbox"/> 建築工事 <input type="checkbox"/> 電気工事 <input type="checkbox"/> 機械器具設置工事

落札者決定基準

苫小牧地区工業用水道配水施設建設事業(中継ポンプ場建設)に関する 総合評価落札方式における落札者決定基準について

1 対象事業

(1)事業名

苫小牧地区工業用水道配水施設建設事業(中継ポンプ場建設)

2 総合評価落札方式

(1)区分

高度技術提案型除算方式に基づく評価値による方法

※ 評価値 = 技術評価点 / 入札価格 = (標準点 + 技術加算点) / 入札価格

※ 標準点 = 100点

※ 技術加算点 = 技術提案加算点 × 提案確実性係数(α)

(2)落札者決定方法

ア 入札価格が予定価格の制限の範囲内にある者のうち、評価値の最も高い者とする。

イ 評価値の最も高い者が2者以上あるときは、その者にくじを引かせて落札者を決定する。

(3)確実性審査

技術提案の履行の確実性の判断の分類は、3段階(評価A($\alpha = 1.000$)、評価B($\alpha = 0.333$)、評価C($\alpha = 0.000$))

評価A:BC以外
 評価B:概ね調査基準価格未満
 評価C:概ね失格基準価格未満

技術加算点は、小数第3位以下を切り捨て第2位止めとする。

(4)技術提案評価点

ア 評価項目の設定

苫小牧地区工業用水道配水施設建設事業(中継ポンプ場建設)の特性を考慮し、特別な配慮や工夫等が必要な評価項目を次のとおり設定する。

評価項目	項目設定の趣旨と提案を求める内容
評価項目(1)	<p>中継ポンプ場の設計計画に関する提案</p> <p>【項目設定の趣旨】</p> <p>ポンプ場の設計計画については、配水ポンプの設置台数によって、受変電設備の構成や建物の規模に影響を与えることから、これらの設計計画が合理的で優れた提案を求める。</p> <p>【提案を求める内容と評価の考え方】</p> <p>ア 配水ポンプの台数に関する提案【10点】</p> <p>配水ポンプの設置台数については、同一能力、又は、異なる能力のポンプの組合せ案を設定し、保守性などに優れた配水ポンプの台数の提案を求める。</p> <p>提案においては、ポンプの組合せ案ごとに、「ポンプの1台あたりの能力」、「保守性」、「信頼度(配水ポ</p>

評価項目	項目設定の趣旨と提案を求める内容
	<p>ンプ故障時のバックアップの考え方等)について比較検討を行い提案すること。また、図表などを活用し選定案とその他のポンプの組合せ案の比較を行うこと。なお、選定案のポンプの設計計画の妥当性を確認するため、水撃検討図の提出を求める。(技術提案時に提出した水撃検討図は、契約図書に含めない。)</p> <p>評価は、「ポンプ1台あたりの能力の検討(ポンプの台数の検討)」、「保守性の観点からの検討」、「信頼度の観点からの検討」について、評価基準(評価基準は非公表。以下同じ。)に基づき取得ポイントを加算し、取得ポイントの合計ポイントに応じて技術加算点を加算する。なお、提案がない場合は欠格とする。</p> <p>イ 受変電設備などの電気設備の構成に関する提案【10点】</p> <p>電気設備の構成については、配水ポンプの設置台数や能力に影響されることから、様々な電気設備の構成を設定し、保守性などに優れた電気設備の構成の提案を求める。</p> <p>提案においては、「ポンプ用電動機の電圧」、「保守性」、「信頼度(設備稼働率の向上対策等)」について比較検討を行い提案すること。また、図表などを活用し選定案とその他の電気設備の構成案の比較を行うこと。なお、選定案の電気設備の設計計画の妥当性を確認するため、単線結線図の提出を求める。(技術提案時に提出した単線結線図は、契約図書に含めない。)</p> <p>評価は、「ポンプ用電動機の電圧に関する検討」、「保守性の観点からの検討」、「信頼度の観点からの検討」について、評価基準に基づき取得ポイントを加算し、取得ポイントの合計ポイントに応じて技術加算点を加算する。なお、提案がない場合は欠格とする。</p> <p>ウ 建物内部のレイアウトに関する提案【10点】</p> <p>建物内部のレイアウトについては、配水ポンプの台数や受変電設備を設置するスペースのほか、通常の点検や設備の更新・修繕が実施できるスペースを確保した提案を求める。</p> <p>提案においては、ポンプ室及び電気室に設置される設備を対象に「通常時の点検作業におけるスペースの確保」、「更新・修繕作業におけるスペースの確保」、「更新・修繕作業における資機材搬入経路」について、「保守性」、「安全性・機能性」、「その他の観点」から検討を行い提案すること。また、建物内部のレイアウトを確認するため、機器配置図、建屋平面図、建屋断面図の提出を求める。(技術提案時に提出した機器配置図等は、契約図書に含めない。)</p> <p>評価は、「通常時の点検作業におけるスペースの確保」、「更新・修繕作業におけるスペースの確保」、「更新・修繕作業における資機材搬入経路」について、評価基準に基づき取得ポイントを加算し、取得ポイントの合計ポイントに応じて技術加算点を加算する。なお、提案が無い場合は欠格とする。</p>
評価項目(2)	<p>環境への配慮に関する提案【5点】</p> <p>【項目設定の趣旨】</p> <p>ゼロカーボン北海道の実現には、カーボンニュートラルの取組が不可避であることから、建設業における脱炭素への機運醸成を目的として、設計や施工時の具体的な取組について提案を求める。また、施工時の周辺環境への配慮について提案を求める。</p> <p>【提案を求める内容と評価の考え方】</p> <p>提案においては、二酸化炭素の排出削減や吸収等に資する機器等の選定や施工方法に関する提案を求める。なお、二酸化炭素の排出削減や吸収等の量を示すことが可能な場合は、これに係る資料を提出すること。また、工事による騒音・振動・粉じんなど周辺環境への影響の低減・抑制に関する提案を求める。</p>

評価項目	項目設定の趣旨と提案を求める内容
	<p>評価は、「二酸化炭素の排出削減や吸収等に資する機器等の選定」、「二酸化炭素の排出削減や吸収等に資する施工方法」、「工事による騒音・振動・粉じんなど周辺環境への影響の低減・抑制に関する提案」について、評価基準に基づき取得ポイントを加算し、取得ポイントの合計ポイントに応じて技術加算点を加算する。なお、二酸化炭素の排出削減や吸収等の量を示す資料により、別途取得ポイントを加算する。</p>
評価項目(3)	<p>ランニングコストに関する提案【15点】</p> <p>【項目設定の趣旨】</p> <p>低廉で安定的な工業用水の供給を将来にわたり続けて行くには運転管理費の削減を図る必要があり、評価項目(1)アからウの技術提案に基づく総合的なランニングコストの提案を求める。</p> <p>【提案を求める内容と評価の考え方】</p> <p>提案においては、当局が指定する運転条件における運転コスト、主要設備(ポンプ設備、自家発電機設備、受変電設備、電気・計装設備、インバーター盤、換気設備、床排水設備、建物)の定期修繕・更新コストについて、供用開始後24年間のランニングコストの提案を求める。なお、修繕費用、更新費用については、実施内容、概算工事費等の説明資料、根拠資料の提出を求める。</p> <p>評価は、1年あたりの管理費用[A]の24か年分、24か年分の修繕費用[B]、24か年分の更新費用[C]を算定し、ランニングコスト[A+B+C]低廉者1位の者を技術加算点満点(15点)とする。その他の者は、提案されたコストに応じて按分して技術加算点を加算する。なお、ランニングコストに関する提案に係る根拠資料により、算定根拠が不足していると判断した場合は評価の対象としない。</p>
評価項目(4)	<p>地域への情報発信に関する提案【1点】</p> <p>【項目設定の趣旨】</p> <p>中継ポンプ場建設事業を円滑に推進するためには、地域の理解が重要であることから、事業目的などについて、地域への情報発信の方法の提案を求める。</p> <p>【提案を求める内容と評価の考え方】</p> <p>提案においては、工業用水道事業や中継ポンプ場建設に関する地域への情報発信の具体的な方法について提案を求める。</p> <p>評価は、情報発信の内容、回数、期待される効果などについて、評価基準に基づき技術加算点を付与する。</p>
評価項目(5)	<p>地域精通度に関する事項【4点】</p> <p>【項目設定の趣旨】</p> <p>地域事情に精通している技術者等を安定的に確保することで、当該事業を円滑に実施することができ、緊急時対応や維持管理の担い手の育成などが期待できることから、地域の企業や技術者等の活用計画に関する具体的な提案を求める。</p> <p>【提案を求める内容と評価の考え方】</p> <p>提案においては、建築工事、電気工事、機械器具設置工事における苫小牧市又は隣接市町等の企業や技術者等の活用計画の提案を求める。</p> <p>評価は、建築工事、電気設備工事、機械器具設置工事の3つの工事種別での企業又は技術者等の効果的な活用を提案した場合に技術加算点満点(4点)とし、活用する工事種別数により技術加算点を減じ、提案が無い場合の技術加算点を0点とする。また、1つの工事種別で複数の提案があった場合の重複評価は行わない。</p>

(5) 評価手順について

ア 技術対話(公共工事の品質確保の促進に関する法律第17条に基づく技術提案の改善)

技術提案書提出後、北海道企業局総合評価審査委員会(以下、審査委員会)と事業者において、次の視点に基づき技術対話を行い、必要に応じ技術提案の改善、再提出を求める。なお、技術対話の実施日時及び改善された技術提案の提出日時については別途通知する。

技術対話実施事項

- ・リスク分担の考え方の確認。
- ・要求水準を満足しているか。
- ・実施不可能な提案はないか。
- ・技術提案書と添付資料の内容に不整合はないか。
- ・技術提案書又は添付資料に誤謬はないか。
- ・設計意図の確認。

イ 改善された技術提案書提出後、総合評価審査委員会が技術加算点の算出方法(非公表)に基づき技術加算点を評価する。

見積書作成要領

見積書等作成要領

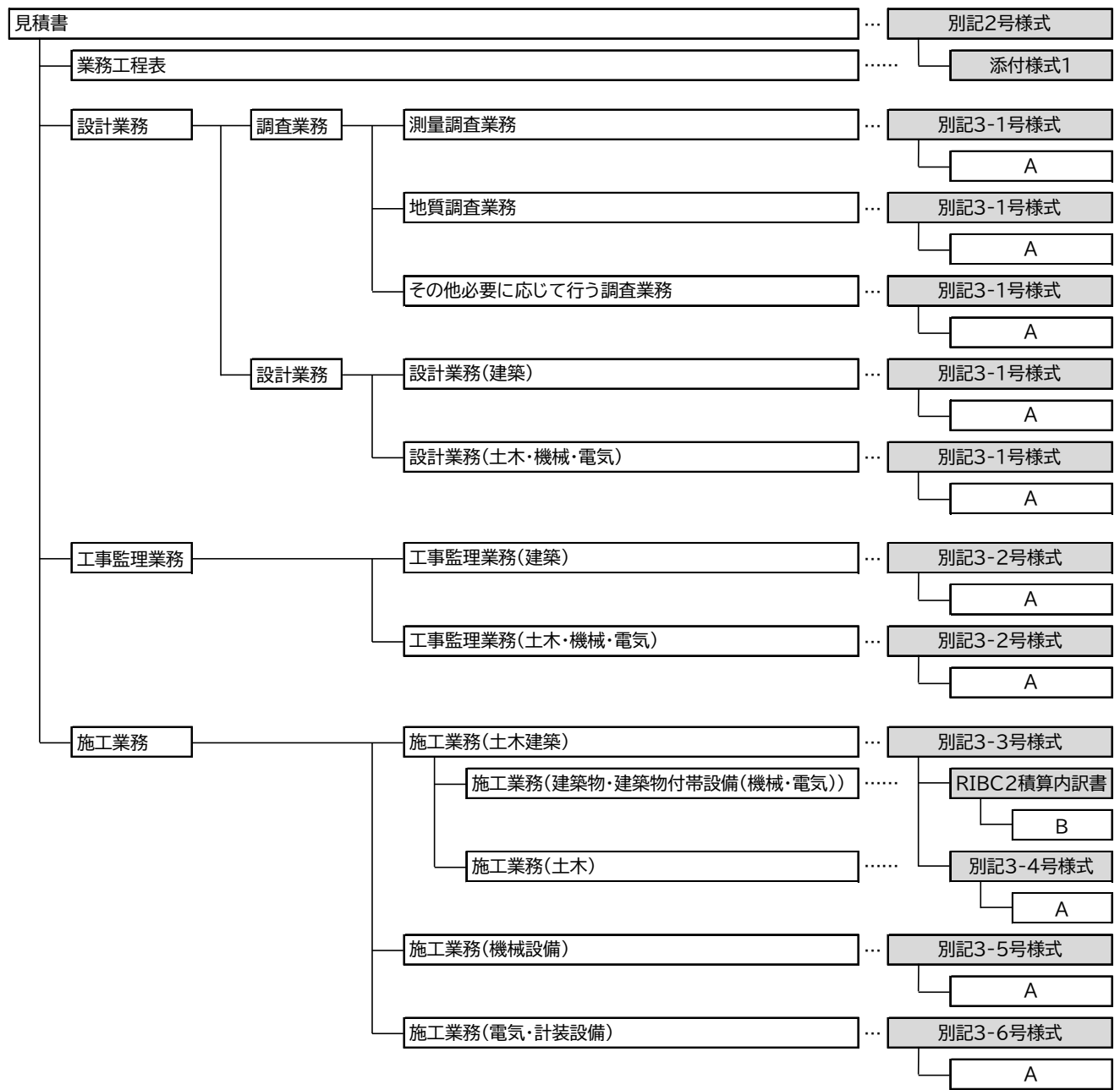
事業名 苫小牧地区工業用水道配水施設建設事業(中継ポンプ場建設)

本要領は、高度技術提案型総合評価落札方式実施要領「3 技術提案」において提出を求めている見積書(別記2号様式)、設計内訳書(別記3-1,2,3,4,5,6号様式)についての作成要領を示している。

また、設計内訳書に添付が必要な資料(別紙及びその他資料)についての作成要領を示している。

1 提出する様式の体系について

以下の業務区分に応じ見積書及び設計内訳書等を作成すること。



A

内訳書(添付様式2)

単価表(添付様式3)

数量集計表(添付様式4)

内訳数量表(添付様式5)

積算単価一覧表(添付様式6)

実勢価格を証明する資料(取引伝票等)

実績価格を証明する資料(施工業務)

B

種目別内訳書

科目別内訳書

中科目別内訳書

細目内訳書

別紙明細

代価表

積算単価一覧表(添付様式6)

実勢価格を証明する資料(取引伝票等)

実績価格を証明する資料

2 記載要領

(1) 見積書

- ・見積書(別記2号様式)に、本事業実施に必要となる消費税及び地方消費税を含まない全ての費用を記載することとし、設計内訳書(別記 3-1,2,3,5,6 号様式)の金額を記載すること。
- ・計上する金額は、令和 6 年 8 月 1 日現在の単価に基づくものとする。
- ・価格算出のための実勢価格、実績価格の有効期限は令和 6 年11月30日以降とする。
- ・建設予定工期については、業務の内、要求水準書「2-4 施工業務」に係る期間を記載すること。
- ・その他必要に応じて行う調査業務については、入札参加希望者任意の名称により必要な費用を記載すること。また、添付する内訳書は、別記 3-1 号様式に必要な業務を適宜追加するとともに、3(2)に基づき資料を添付すること。

(2) 調査業務

- ・要求水準書「2-1 調査業務」に係る費用を設計内訳書(別記 3-1 号様式)に記載し提出すること。
- ・設計内訳書は、適用する積算基準・積算要領等(別表 1 参照)に基づき細別(レベル4)までの数量及び金額を記載すること。
- ・細別(レベル4)の備考欄には、資料の番号(内-○号、単-○号、刊-○、実勢-○、実績-○など。○は任意の数を表す。添付資料については、「3 添付資料」による。)を必ず記載すること。
- ・諸経費等の算出に使用する業務期間は、令和 6 年11月28日から令和 9 年 9 月30日までとする。
- ・必要に応じて項目・工種・種別・細別を追加して記載すること。

(3) 設計業務

- ・要求水準書「2-2 設計業務」に係る費用を設計内訳書(別記 3-1 号様式)に記載し提出すること。
- ・設計内訳書は、適用する積算基準・積算要領等(別表 1,2 参照)に基づき細別(レベル4)までの数量及び金額を記載すること。
- ・細別(レベル4)の備考欄には、資料の番号(内-○号、単-○号、刊-○、実勢-○、実績-○など。○は任意の数を表す。添付資料については、「3 添付資料」による。)を必ず記載すること。
- ・諸経費等の算出に使用する業務期間は、令和 6 年11月28日から令和 9 年 9 月30日までとする。
- ・必要に応じて項目・工種・種別・細別を追加して記載すること。

(4) 工事監理業務

- ・要求水準書「2-3 工事監理業務」に係る費用を設計内訳書(別記 3-2 号様式)に記載し提出すること。
- ・設計内訳書は、適用する積算基準・積算要領等(別表 1,3 参照)に基づき細別(レベル4)までの数量及び金額を記載すること。
- ・細別(レベル4)の備考欄には、資料の番号(内-○号、単-○号、刊-○、実勢-○、実績-○など。○は任意の数を表す。添付資料については、「3 添付資料」による。)を必ず記載すること。
- ・諸経費等の算出に使用する業務期間は、令和 6 年11月28日から令和 9 年 9 月30日までとする。
- ・必要に応じて項目・工種・種別・細別を追加して記載すること。

(5) 施工業務(土木建築)

- ・要求水準書「2-4 施工業務」の内、(ア)土木建築設備に係る費用を設計内訳書(別記 3-3 号様式)に記載し提出すること。
- ・設計内訳書(別記 3-3 号様式)は、適用する積算基準・積算要領等(別表 1 参照)に基づき算出した直接工事費及び共通費を記載すること。
- ・別記 3-3 号様式の土木工事(要求水準書「2-4 施工業務」の内、(ア) d 外構工事)に係る直接工事費を設計内訳書(別記 3-4 号様式)に記載し提出すること。
- ・設計内訳書(別記 3-4 号様式)は、適用する積算基準・積算要領等(別表 1 参照)に基づき算出すること。
- ・諸経費等の算出に使用する工期は、見積書(別記2号様式)に記載する建設予定工期とすること。

(6) 施工業務(機械設備)

- ・要求水準書「2-4 施工業務」の内、(イ)機械設備に係る費用を設計内訳書(別記 3-5 号様式)に記載し提出すること。
- ・設計内訳書は、適用する積算基準・積算要領等(別表 1,4 参照)に基づき細別(レベル4)までの数量及び金額を記載すること。
- ・細別(レベル4)の備考欄には、資料の番号(内-○号、単-○号、刊-○、実勢-○、実績-○など。○は任意の数を表す。添付資料については、「3 添付資料」による。)を必ず記載すること。
- ・製作工においては、直接製作費を計上することとし、必要に応じ直接製作費に係る間接労務費及び工場管理費を計上すること。
- ・ポンプ場受電後の電力基本料金を共通仮設費(役務費)に計上すること。
- ・受電後の電気使用量料金を直接経費に計上すること。
- ・諸経費等の算出に使用する工期は、見積書(別記2号様式)に記載する建設予定工期とすること。
- ・必要に応じて項目・工種・種別・細別を追加して記載すること。

(7) 施工業務(電気・計装設備)

- ・要求水準書「2-4 施工業務」の内、(ウ)電気・計装設備に係る費用を設計内訳書(別記 3-6号様式)に記載し提出すること。
- ・設計内訳書は、適用する積算基準・積算要領等(別表 1,5 参照)に基づき細別(レベル4)までの数量及び金額を記載すること。
- ・細別(レベル4)の備考欄には、資料の番号(内-○号、単-○号、刊-○、実勢-○、実績-○など。○は任意の数を表す。添付資料については、「3 添付資料」による。)を必ず記載すること。
- ・諸経費等の算出に使用する工期は、見積書(別記2号様式)に記載する建設予定工期とすること。
- ・必要に応じて項目・工種・種別・細別を追加して記載すること。

3 添付資料

(1) 見積書(別記2号様式)に添付する資料

ア 業務工程表(添付様式1)

- ・記載する項目は下表のとおりとし、バーチャートにより作成し、年度毎に様式を分けて添付すること。

区 分	「 業 務 」 欄	「 細 目 」 欄
設計業務	調査業務	—
	設計業務	—
工事監理業務	工事監理業務(建築)	—
	工事監理業務(土木・機械・電気)	—
施工業務	施工業務(土木建築)	杭工事、基礎工事、躯体工事(地下部分)(地下がある場合)、躯体工事(地上部分)、外構工事、その他(適宜記載)
	施工業務(機械設備)	製作期間(製作開始から現地搬入までの期間)、据付工事、試験調整、その他(適宜記載)
	施工業務(電気・計装設備)	製作期間(製作開始から現地搬入までの期間)、据付工事、試験調整、その他(適宜記載)

(2)設計内訳書(別記 3-3 号様式を除く)に添付する資料

ア 内訳書(添付様式2)

- ・設計内訳書の細別(レベル4)の単位が「式」の場合、1式当たりの内訳書を添付すること。
- ・本資料を添付する設計内訳書(別記 3-3 号様式を除く)の「業務名」を必ず記載すること。記載する業務名は、下表のとおりとする。

業 務 区 分		添付資料に記載する業務名
設計業務	調査業務	測量調査業務
		地質調査業務
		その他必要に応じて行う調査業務 (入札参加希望者の名称)
	設計業務	設計業務(建築)
		設計業務(土木・機械・電気)
工事監理業務		工事監理業務(建築)
		工事監理業務(土木・機械・電気)
施工業務	施工業務(土木建築)	施工業務(建築物・建築物付帯設備(機械・電気))
		施工業務(土木)
	施工業務(機械設備)	施工業務(機械設備)
	施工業務(電気・計装設備)	施工業務(電気・計装設備)

イ 単価表(添付様式3)

- ・設計内訳書の細別(レベル4)に対する単価の内訳を添付すること。
- ・設計内訳書に内訳書(添付様式2)を添付した場合は、内訳書(添付様式2)の項目に対する単価の内訳を添付すること。
- ・本資料を添付する設計内訳書(別記 3-3 号様式を除く)の「業務名」を必ず記載すること。記載する業務名は、3(2)アの表による。
- ・単価表の摘要欄には、単価資料の番号(単-○号、刊-○、実勢-○、実績-○など。○は任意の数を表す。)を必ず記載すること。なお、単価が労務単価や技術者単価の場合は、その旨を記載すること。

ウ 数量集計表(添付様式4)

- ・設計内訳書等に記載する数量及び数量区分(積算基準に基づく積算条件等)が記入された数量集計表(添付様式4)を添付すること。
- ・本資料を添付する設計内訳書(別記 3-3 号様式を除く)の「業務名」を必ず記載すること。記載する業務名は、3(2)アの表による。
- ・数量区分については、別表1の適用する積算基準、積算要領等及び積算体系等を参照し積算条件等を明示する事。(設計業務(建築)及び工事監理業務(建築)は記載例を参照、施工業務(機械設備)は別表1のほか別表6も参考とすること)
- ・設計数量には、年度別の数量及び合計数量を記載すること。

エ 内訳数量表(添付様式5)

- ・必要に応じて、数量集計表(添付様式4)を補完する内訳数量表(添付様式5)を添付すること。
- ・本資料を添付する設計内訳書(別記 3-3 号様式を除く)の「業務名」を必ず記載すること。記載する業務名は、3(2)アの表による。

オ 実勢価格を使用する場合に必要な資料

- ・実勢価格を使用する場合は、同一品又は類似品の取引伝票などの実勢価格を証明する資料を提出すること。なお、建設工事費デフレーター(国土交通省)により、見積書提出時点の実質額へ変換する場合は、変換に関する説明資料を提出すること。

カ 実績価格を使用する場合に必要な資料

- ・施工業務について、設計内訳書の細別(レベル4)の単位が「式」の場合で、上記ア及びイの提出が困難な場合、類似業務の実績価格を基に算出した金額の計上を認める。ただし、類似業務の内容や金額を証明する資料(契約書や内訳書の写し等)、価格算出のための補足資料を提出すること。なお、建設工事費デフレーター(国土交通省)により、見積書提出時点の実質額へ変換する場合は、変換に関する説明資料を提出すること。

キ 積算単価一覧表(添付様式6)

- ・内訳書等に計上する刊行物単価、実勢価格単価、実績価格単価は、積算単価一覧表(添付様式6)に集約し提出すること。
- ・本資料を添付する設計内訳書(別記 3-3 様式を除く)の「業務名」を必ず記載すること。記載する業務名は、3(2)アの表による。

(3)設計内訳書(別記 3-3 号様式)に添付する資料

ア 種目別内訳書、科目別内訳書、中科目別内訳書、細目別内訳書、別紙明細

- ・営繕積算システム RIBC2(一般財団法人建築コスト管理システム研究所)を使用し、発注者が提供する単価ファイルを用いて作成した種目別内訳書・科目別内訳書・中科目別内訳書・細目内訳書・別紙明細を作成し添付すること。
- ・なお、添付する資料は、単価及び金額のマスク処理された資料と、入札参加希望者の積算単価を入力した資料の2種を添付すること。
- ・発注者が提供した単価以外を設計内訳書等に使用した場合、後述ウ、エ及びオの資料を提出すること。
- ・細目別内訳書の単位は、公共建築工事内訳書標準書式(国土交通省)に基づくこととし、単位が「式」と「式」以外が併記されている場合は、「式」以外を細目別内訳書に記載する単位とすること。

イ 代価表

- ・複合単価を独自に作成した場合、その代価表を添付すること。

ウ 実勢価格を使用する場合に必要な資料

- ・実勢価格を使用する場合は、同一品又は類似品の取引伝票などの実勢価格を証明する資料を提出すること。なお、建設工事費デフレーター(国土交通省)により、見積書提出時点の実質額へ変換する場合は、変換に関する説明資料を提出すること。

エ 実績価格を使用する場合に必要な資料

- ・細目別内訳書に「式」で計上されている金額について、上記ア及びイの提出が困難な場合、類似業務の実績価格を基に算出した金額の計上を認める。ただし、類似業務の内容や金額を証明する資料(契約書や内訳書の写し等)、価格算出のための補足資料を提出すること。なお、建設工事費デフレーター(国土交通省)により、見積書提出時点の実質額へ変換する場合は、変換に関する説明資料を提出すること。

オ 積算単価一覧表(添付様式6)

- ・本資料を添付する設計内訳書(別記 3-3 様式を除く)の「業務名」を必ず記載すること。記載する業務名は、3(2)アの表による。
- ・内訳書等に計上する刊行物単価、実勢価格単価、実績価格単価は、積算単価一覧表(添付様式6)に集約し提出すること。

カ 施工業務(土木)の設計内訳書(別記 3-4 号様式)

- ・3(2)に基づき作成した、施工業務(土木)の設計内訳書を添付すること。

別表 1

業務区分	適用する積算基準、積算要領等		端数処理
	積算体系等		
設計業務			
調査業務			
・測量調査業務	北海道建設部 土木事業委託積算基準	土木事業委託積算基準	〔総則1〕 2－2端数処理等の方法
・地質調査業務	土木工事工種体系化の手引き(北海道建設部)		
設計業務			
・設計業務 (建築)	国土交通省 官庁施設の設計業務等積算基準	別記3－1号様式 注記(端数の取り扱い)による	
	別表2による		
・設計業務 (土木・機械・電気)	北海道建設部 土木工事積算基準(下水道編)	土木事業委託積算基準	〔総則1〕 2－2端数処理等の方法
	下水道工事工種体系化の手引き・数量算出要領(北海道建設部)		
工事監理業務			
工事監理業務 (建築)	国土交通省 官庁施設の設計業務等積算基準	別記3－2号様式 注記(端数の取り扱い)による	
	別表3による		
工事監理業務 (土木・機械・電気)	北海道建設部 土木事業委託積算基準-施工管理業務積算基準	土木事業委託積算基準	〔総則1〕 2－2端数処理等の方法
	土木工事工種体系化の手引き(北海道建設部)		
施工業務			
施工業務 (土木建築)	北海道建設部 営繕工事積算要領 (土木工事は、建築工事の合併工事として取り扱い、積算基準等については、北海道建設部土木関係工事積算基準(下水道編)、土木工事積算要領(工種区分:下水道工事(3))を適用する。 北海道建設部土木関係工事積算要領(下水道編)に無い歩掛については、厚生労働省 水道施設整備費に係る歩掛表(直接工事費のみ)を適用すること。)		北海道建設部 営繕工事積算要領 北海道土木関係工事積算要領 要領・土木-3
	公共建築工事標準内訳書書式(国土交通省) (ただし、土木工事部分については、下水道工事工種体系化の手引き・数量算出要領(北海道建設部)による)		
施工業務 (機械設備)	北海道建設部 土木関係工事積算要領(土木請負工事工事費積算要領(機械設備編))・土木工事積算基準(機械設備編)	北海道土木関係工事積算要領 要領・機械-32	
	別表4による		
施工業務 (電気・計装設備)	北海道建設部 土木関係工事積算要領(土木請負工事費積算要領(電気通信編))・土木工事積算基準(電気通信編)	北海道土木関係工事積算要領 要領・電気-17	
	別表5による		

別表2 設計業務(建築)細別(レベル4)項目一覧表

(本表は設計内訳書に記入する設計業務(建築)細別(レベル4)の項目を記載している)

項目	工種	種別	細別	単位	数値
			(レベル4)		
設計業務(建築)				式	1
	直接人件費			式	1
		直接人件費		式	1
			設計(基本・実施)	式	1
			追加業務	式	1
	特別経費			式	1
		旅費交通費等		式	1
			旅費交通費	式	1
			申請手数料	式	1

別表3 工事監理業務(建築)細別(レベル4)項目一覧表

(本表は設計内訳書に記入する工事監理業務(建築)細別(レベル4)の項目を記載している)

項目	工種	種別	細別	単位	数値
			(レベル4)		
工事監理業務(建築)				式	1
	直接人件費			式	1
		直接人件費		式	1
			工事監理費	式	1
			追加業務	式	1
	特別経費			式	1
		旅費交通費等		式	1
			旅費交通費	式	1

別表4 機械設備工事細別(レベル4)項目一覧表

(本表は設計内訳書に記入する機械設備工事細別(レベル4)の項目を記載している)

L0	L1	L2	L3	細別(レベル4)	単位	区分
				機械設備	式	-
				製作工	式	C
				揚排水ポンプ設備製作	式	C
				主ポンプ設備	式	C
				主ポンプ	台	C
				主ポンプ予備品	式	C
				吸込管	台分	C
				吐出管	台分	C
				可とう管	組	C
				主配管用弁	台	C
				ワンプ弁	台	C
				伸縮管継手	台分	C
				減速機架台	台	C
				主原動機	式	C
				エンジン	台	C
				電動機	台	C
				吸排気管ダクト	台分	C
				動力伝達装置	式	C
				減速機	台	C
				クラッチ	組	C
				ワイヤール	組	C
				系統機器設備	式	C
				管内クーラ	台	C
				冷却水ポンプ	台	C
				オートストレーナ	台	C
				潤滑水ポンプ	台	C
				封水ポンプ	台	C
				温水ポンプ	台	C
				膨張タンク	基	C
				高架水槽	基	C
				クーリングタワー	基	C
				真空ポンプ	台	C
				燃料移送ポンプ(電動)	台	C
				燃料移送ポンプ(手動)	台	C
				燃料小出槽	基	C
				空気圧縮機	台	C
				始動空気槽	組	C
				取水ポンプ	台	C
				原水バルブ	台	C
				屋内排水ポンプ	台	C
				井戸ポンプ	台	C
				燃料貯油槽	基	C
				凍結防止装置	式	C
				操作制御設備	式	C
				監視操作盤	面	C
				機側操作盤(各種)	面	C
				水位測定装置	台	C
				流量測定装置	台	C
				濃度計	台	C
				ITV盤	面	C
				ITV装置	台	C
				運転支援システム	台	C
				センサ類(揚排水ポンプ)	式	C
				操作制御設備(各種)	面	C
				ループ設備	式	C
				天井クーラ	基	C
				ホイス	台	C
				チェーンロック	台	C
				付属設備	式	C
				付属設備(各種)	基	C

L0	L1	L2	L3	細別(レベル4)	単位	区分
				据付工	式	A
				揚排水ポンプ設備輸送工	式	A
				輸送工	式	A
				揚排水ポンプ設備輸送	式	A
				輸送	式	A
				小運搬	t	A
				均しコンクリート	m2	A
				基礎材	m2	A
				マンホール	箇所	A
				プレキャストマンホール	箇所	A
				揚排水ポンプ設備据付	式	A
				揚排水ポンプ据付工	式	A
				据付(揚排水ポンプ)	式	A
				据付(付属設備)	式	A
				小配管布設	式	A
				電線類布設	式	A
				直接経費	式	A
				作業土工	式	A
				床掘り(掘削)	m3	A
				床掘り	m3	A
				埋戻し	m3	A
				基面整正	m2	A
				掘削補助機械搬入搬出	回	A
				転石破碎	m3	A
				積込(ルース)	m3	A
				人力積込	m3	A
				人力運搬	m3	A
				押土(ルース)	m3	A
				土砂等運搬	m3	A
				整地	m3	A
				土材料	m3	A
				土工	式	A
				掘削	m3	A
				土砂等運搬	m3	A
				河床等掘削	m3	A
				軟弱土等運搬	m3	A
				整地	m3	A
				転石破碎	m3	A
				押土(ルース)	m3	A
				積込(ルース)	m3	A
				人力積込	m3	A
				路体(築堤)盛土	m3	A
				路床盛土	m3	A
				土材料	m3	A
				残土等処分	m3	A
				コンクリート工	式	A
				基礎材	m2	A
				コンクリート	m3	A
				間詰コンクリート	m3	A
				均しコンクリート	m2	A
				型枠	m2	A
				処分費	m3	A
				鉄筋	t	A
				目地板	m2	A
				止水板	m	A
				防水材	m3	A
				充填砂	m3	A
				バルク充填	m3	A
				穿孔(グイヤードカッタ)	箇所	A
				左官仕上げ	m2	A
				基礎工	式	A
				既製コンクリート杭	本	A
				鋼管杭	本	A
				現場取卸(鋼管杭)	t	A

L0	L1	L2	L3	細別(レベル4)	単位	区分
				共通仮設	式	B
				共通仮設費	式	B
				運搬費	式	B
				建設機械運搬費	台	B
				重建設機械分解組立費	回	B
				仮設材運搬費	t	B
				重建設機械分解組立輸送費	回	B
				砂防堰堤工機械分解組立費	台	B
				浚渫船回航費	回	B
				作業船等回航費	回	B
				作業船等えい航費	回	B
				交通船	日	B
				準備費	式	B
				木根等処分費	式	B
				立木切倒し・枝払い切揃え、立木集積	本	B
				立木積込み	t	B
				立木・伐開物・抜根物運搬費	t	B
				立木・伐開物・抜根物処分費	m3	B
				立木・伐開物・抜根物処分費	m3	B
				着工時除雪費(機械)	m2	B
				着工時除雪費(人力)	m3	B
				着工時工事用道路除雪費	km	B
				着工時搬出除雪費	m3	B
				路面ヒーター	時間	B
				繋船費(河川)	日	B
				繋船費(海岸)	式	B
				退避	日	B
				試験掘り費	箇所	B
				木根等処分費	式	B
				事業損失防止施設費	式	B
				事業損失防止施設費	式	B
				家屋調査費	式	B
				騒音調査費	式	B
				振動調査費	式	B
				沈下観測費	式	B
				傾斜観測費	式	B
				水質調査費	式	B
				地下水観測費	式	B
				安全費	式	B
				トナリ呼吸用保護具等費用	式	B
				鉛等呼吸用保護具等費用	式	B
				機械誘導員	人日	B
				安全管理員	人日	B
				高圧線防護施設費	式	B
				救急設備費	式	B
				照明設備	式	B
				酸素欠乏症予防	式	B
				救命艇	式	B
				粉塵作業予防	式	B
				高圧作業予防	式	B
				防火安全対策	式	B
				現場環境改善費	式	B
				保安管理費	式	B
				雨量計	式	B
				安全灯	個	B
				安全設備費	式	B
				安全設備費	基	B
				役務費	式	B
				電力基本料金	式	B
				電力設備工事負担金	式	B
				用水基本料金	式	B
				借地料	式	B

※集計区分A:直接工事費、集計区分B:共通仮設費、集計区分C:工場製作工 とする。

別表5 電気・計装設備工事細別(レベル4)項目一覧表

(本表は設計内訳書に記入する電気・計装設備工事細別(レベル4)の項目を記載している)

L0	L1	L2	L3	細別(レベル4)	単位	区分
				電気通信設備	式	-
				電気設備(機器単体)	式	B
				揚排水機場電気設備	式	B
				高圧受変電設備	式	B
				高圧気中開閉器	台	B
				高圧引込盤	面	B
				高圧受電盤	面	B
				変圧器盤	面	B
				き電盤	面	B
				接地変圧器盤	面	B
				所内変圧器盤	面	B
				動力盤	面	B
				照明盤	面	B
				コンテナ盤	面	B
				補助継電器盤	面	B
				中継端子盤	面	B
				接地端子盤	面	B
				コントロール盤	面	B
				低圧配電盤	面	B
				制御用直流電源盤	面	B
				機器単体(各種)	各種	B
				低圧受変電設備	式	B
				低圧受電盤	面	B
				変圧器盤	面	B
				低圧配電盤	面	B
				機器単体(各種)	各種	B
				発電設備	式	B
				発電発電装置	台	B
				発電機盤	面	B
				直流電源盤	面	B
				消音器	組	B
				ダンプ	個	B
				蓄電池	枚	B
				燃料小出し槽	組	B
				機器単体(各種)	各種	B
				無停電電源設備	式	B
				無停電電源装置	台	B
				蓄電池盤	面	B
				蓄電池	枚	B
				機器単体(各種)	各種	B
				直流電源設備	式	B
				直流電源装置	台	B
				蓄電池盤	面	B
				蓄電池	枚	B
				機器単体(各種)	各種	B
				操作制御装置	式	B
				処理装置	台	B
				監視制御用端末装置	台	B
				受変電用監視操作卓	台	B
				操作卓用制御盤	面	B
				ブリッジ	台	B
				トランスバ	台	B
				回線終端装置	台	B
				通信用インターフェイス	個	B
				機器単体(各種)	各種	B
				CCTV装置	式	B
				CCTV制御装置	架	B
				CCTV操作卓	台	B
				TVモニタ	台	B
				モニタ装置	面	B
				切換装置	台	B
				カメラ装置	台	B
				機器単体(各種)	各種	B
				中央監視設備	式	B
				グラフィックパネル	面	B
				中央監視処理装置	台	B
				入出力インターフェイス	台	B
				駐車場中央監視操作卓	台	B
				プリンタ	台	B
				機器単体(各種)	各種	B

L0	L1	L2	L3	細別(レベル4)	単位	区分
				電気設備	式	A
				受変電設備工	式	A
				高圧受変電設備設置工	式	A
				引込設備設置	式	A
				高圧受変電設備設置	式	A
				機器(各種)設置	各種	A
				器材(各種)設置	各種	A
				高圧受変電設備総合調整	式	A
				低圧受変電設備設置工	式	A
				引込設備設置	式	A
				低圧受変電設備設置	式	A
				機器(各種)設置	各種	A
				器材(各種)設置	各種	A
				受変電用監視制御設備設置工	式	A
				受変電用監視制御装置設置	式	A
				機器(各種)設置	各種	A
				器材(各種)設置	各種	A
				受変電監視制御装置総合調整	式	A
				引込柱設置工	式	A
				引込柱設置	本	A
				配管・配線工	式	A
				地中配管	m	A
				地中配線	m	A
				屋内配管	m	A
				屋内配線	m	A
				屋外配管	m	A
				屋外配線	m	A
				架空配線	径間	A
				埋設標識シート敷設	m	A
				配管配線附属品	式	A
				ケーブル端末処理	箇所	A
				ケーブル接続	箇所	A
				作業土工(電気)	式	A
				敷運搬処理(電気)	式	A
				配線器具設置工	式	A
				フロア外設置	m	A
				ワイヤレスリクータ設置	m	A
				ケーブルラック設置	m	A
				ダクト設置	個	A
				配線器具附属品取付	個	A
				ハンドホール設置工	式	A
				プレキャストハンドホール設置	個所	A
				現場打ちハンドホール設置	個所	A
				作業土工(電気)	式	A
				敷運搬処理(電気)	式	A
				受変電設備基礎工	式	A
				受変電設備基礎設置	個所	A
				作業土工(電気)	式	A
				敷運搬処理(電気)	式	A
				接地設置工	式	A
				A種接地	極	A
				B種接地	極	A
				C種接地	極	A
				D種接地	極	A
				接地端子箱	個	A
				耐震施工	式	A
				引張試験	本	A
				電源設備工	式	A
				発電設備設置工	式	A
				発電発電設備設置	式	A
				機器(各種)設置	各種	A
				器材(各種)設置	各種	A
				無停電電源設備設置工	式	A
				無停電電源装置設置	式	A
				蓄電池設置	個	A
				機器(各種)設置	各種	A
				器材(各種)設置	各種	A

L0	L1	L2	L3	細別(レベル4)	単位	区分
				直流電源設備設置工	式	A
				直流電源装置設置	式	A
				蓄電池設置	個	A
				機器(各種)設置	各種	A
				器材(各種)設置	各種	A
				CCTV監視制御装置設置工	式	A
				CCTV監視制御装置設置	架	A
				CCTV操作卓設置	台	A
				TVモニタ設置	台	A
				モニタ装置設置	面	A
				切換装置設置	台	A
				カメラ装置設置	台	A
				機器(各種)設置	各種	A
				器材(各種)設置	各種	A
				中央監視設備設置工	式	A
				グラフィックパネル設置	面	A
				中央監視処理装置設置	台	A
				入出力インターフェイス設置	台	A
				駐車場中央監視操作卓設置	台	A
				プリンタ設置	台	A
				機器(各種)設置	各種	A
				器材(各種)設置	各種	A

※集計区分A:直接工事費、集計区分B:機器費 とする。

別表6 数量区分入力表(機械設備)

据付(主ポンプ)			
積算要素	数量区分	入力条件	
ポンプ据え付け材料費	ポンプ形式	立軸 軸流・斜流(一床・二床式)	
		横軸渦巻(両吸込・片吸込)	
		縦軸渦巻(斜流)	
		水中(固定・着脱)	
		その他()	
	原動機種別	電動機駆動	
		ディーゼルエンジン駆動	
	小配管材質	SUS管	
		SGP管	
受電電圧	高圧受電		
	低圧受電		
ポンプ設備据付労務費計	実数入力		
付帯設備(天井クレーン)据付材料費		実数入力	
据付補助材料費	工種	揚排水ポンプ設備	
		その他省略	
	揚排水設備区分	揚排水ポンプ設備	
		除塵設備	
	据付労務費	実数入力	
ポンプ据付(総合)	-	-	
(ポンプ設備据付)	連続発注による工数補正	補正しない	
		補正する	
	ポンプ形式	横軸 軸流	
		横軸 斜流	
		立軸 軸流(一床)	
		立軸 軸流(二床)	
		立軸 斜流(一床)	
		立軸 斜流(二床)	
		横軸渦巻(両吸込・片吸込)	
		立軸渦巻(斜流)	
		水中(固定・着脱)	
		その他()	
		ポンプ吐出量(m3/min)	吐出量を入力
	主ポンプ駆動用原動機種別	電動機	
		ディーゼルエンジン	
		ガスタービンエンジン	
	給水方式	給水	
		無給水	
	ポンプ据え付け台数	台数を入力	
	形式	手動式	
		電動式	
	定格荷重	1.0t	
		2.0t	
		3.2t	
		5.0t	
		7.5t	
		10.0t	
	(天井クレーン据付)	形式	電動式
		定格荷重	1.0t
			2.0t
			3.2t
			5.0t
			7.5t
			10.0t

据付(床排水ポンプ)			
積算要素	数量区分	入力条件	
ポンプ据え付け材料費	ポンプ形式	横軸 軸流・斜流	
		立軸 軸流・斜流(一床・二床式)	
		横軸渦巻(両吸込・片吸込)	
		縦軸渦巻(斜流)	
		水中(固定・着脱)	
	原動機種別	電動機駆動	
		ディーゼルエンジン駆動	
	小配管材質	SUS管	
		SGP管	
受電電圧	高圧受電		
	低圧受電		
ポンプ設備据付労務費計	実数入力		
据付補助材料費	工種	揚排水ポンプ設備	
		その他省略	
	揚排水設備区分	揚排水ポンプ設備	
		除塵設備	
	据付労務費	実数入力	
ポンプ据付(総合)	連続発注による工数補正	補正しない	
		補正する	
	ポンプ形式	横軸 軸流	
		横軸 斜流	
		立軸 軸流(一床)	
		立軸 軸流(二床)	
		立軸 斜流(一床)	
		立軸 斜流(二床)	
		横軸渦巻(両吸込・片吸込)	
		立軸渦巻(斜流)	
		水中(固定・着脱)	
ポンプ吐出量(m3/min)		吐出量を入力	
据付材料費	計上しない		
	ポンプ設備据付材料費(率)		
	受変電設備据付材料費(率)		
	天井クレーン据付材料費(率)		
据付(手摺・歩廊)			
積算要素	数量区分	入力条件	
	連続発注による工数補正	補正する	
		補正しない	
	区分	A(操作台・管理橋)	
		B(手摺)	
		C(階段)	
		D(塵芥コンテナ)	
	(天井クレーン据付)		その他()
		1基当り据付質量(t/基)	質量を入力(区分A・B)
		今回工事据付数(基)	基数を入力(区分A・B)
		今回工事区分毎全体質量(t)	実数入力(区分C)

様式集

提出年月日 令和 年 月 日

北海道 公営企業管理者 様

入札参加希望者名

印

事業名 苫小牧地区工業用水道配水施設建設事業（中継ポンプ場建設）

建設予定工期 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日（業務工程表添付）

[illegible]

設計内訳書

※必要に応じ、項目、工種、種別、細別を追加し使用すること。

項目	工種	種別	細別	規格	単位	数量	単価	金額	備考
[L1]	[L2]	[L3]	[L4]						
【測量調査業務】									
．．．									
基準点測量					式	1			
2級基準点測量					式	1			
2級基準点測量				伐採含まない	点	1			
．．．									
現地測量					式	1			
．．．									
．．．									
用地測量					式	1			
．．．									
．．．									
共通					式	1			
．．．									
．．．									
直接経費					式	1			
．．．									
．．．									
技術管理費					式	1			
．．．									
直接測量費					式	1			
間接測量費					式	1			
諸経費					式	1			
測量調査業務価格					式	1			(A)
【地質調査業務】									
．．．					式	1			
直接調査費					式	1			
．．．					式	1			
．．．					・				
間接調査費					式	1			
．．．					式	1			
純調査費					式	1			

※必要に応じ、項目、工種、種別、細別を追加し使用すること。

項目	工種	種別	細別	規格	単位	数量	単価	金額	備考
[L1]	[L2]	[L3]	[L4]						
間接費					式	1			
諸経費					式	1			
一般調査業務価格					式	1			(B)
．．．					式	1			
直接業務費					式	1			
．．．					式	1			
．．．									
共通					式	1			
．．．					式	1			
．．．									
直接経費					式	1			
．．．					式	1			
直接原価					式	1			
その他原価					式	1			
業務原価					式	1			
一般管理費等					式	1			
解析等調査業務価格					式	1			(C)
地質調査業務価格					式	1			(B) + (C)
【設計業務（建築）】 ※端数の取り扱いは本様式下欄による									
．．．									
直接人件費					式	1			
．．．					式	1			
．．．					・				
特別経費					式	1			
．．．					式	1			
．．．					・				
設計業務（建築）価格					式	1			(D)
【設計業務（土木・機械・電気）】									
．．．					式	1			
ポンプ場					式	1			

設計内訳書

※必要に応じ、項目、工種、種別、細別を追加し使用すること。

項目	工種	種別	細別	規格	単位	数量	単価	金額	備考
[L1]	[L2]	[L3]	[L4]						
. . .					式	1			
. . .					式	1			
直接経費					式	1			
. . .					式	1			
直接原価					式	1			
その他原価					式	1			
業務原価					式	1			
一般管理費等					式	1			
設計業務（土木・機械・電気）価格					式	1			(E)
					式	1			

※ 設計業務（建築）に係る端数の取り扱い
本業務に係る端数の取り扱いは次による。
・一般業務及び追加業務に係る業務人・時間数
・難易度係数及び対象外業務率
・直接人件費、諸経費、技術料等経費及び特別経費
・業務価格

整数（小数点以下切捨て）
小数第2位（小数第3位以下切捨て）
円止め（円未満切捨て）
合計額を万円止め（万円未満切り捨て）
ただし、合計額が50万円未満の場合は千円止め（千円未満切捨て）

※必要に応じ、項目、工種、種別、細別を追加し使用すること。

項目	工種	種別	細別	規格	単位	数量	単価	金額	備考
[L1]	[L2]	[L3]	[L4]						
【工事監理（建築）業務】 ※端数の取り扱いは本様式下欄による									
．．．									
直接人件費					式	1			
直接人件費					式	1			
工事監理費				2号2類〇〇㎡	式	1			
諸経費					式	1			
技術料等経費					式	1			
特別経費					式	1			
．．．									
工事監理業務（建築）価格					式	1			(A)
【工事監理業務（土木・機械・電気）】									
．．．					式	1			
施工管理					式	1			
．．．									
．．．					・				
直接経費					式	1			
．．．									
直接原価					式	1			
その他原価					式	1			
業務原価					式	1			
一般管理費等					式	1			
工事監理業務（土木・機械・電気）価格					式	1			(B)

※ 工事監理（建築）業務に係る端数の取り扱い

本業務に係る端数の取り扱いは次による。

- ・一般業務及び追加業務に係る業務人・時間数
- ・難易度係数及び対象外業務率
- ・直接人件費、諸経費、技術料等経費及び特別経費
- ・業務価格

整数（小数点以下切捨て）

小数第2位（小数第3位以下切捨て）

円止め（円未満切捨て）

合計額を万円止め（万円未満切り捨て）

ただし、合計額が50万円未満の場合は千円止め（千円未満切捨て）

名称	数量	単位	金額	備考
【施工業務（土木建築）】				
直接工事費				
建築工事	1	式		RIBC2で作成した1式工事費を記入
建築付帯電気設備工事	1	式		〃
建築付帯機械設備工事	1	式		〃
土木工事	1	式		別記 3－4 号様式
計	1	式		
共通費				
共通仮設費	1	式		共通仮設費（率分＋積上分）
現場管理費	1	式		
一般管理費等	1	式		
計				
土木建築工事価格	1	式		

※必要に応じ、項目、工種、種別、細別を追加し使用すること。

項目	工種	種別	細別	規格	単位	数量	単価	金額	備考
[L1]	[L2]	[L3]	[L4]						
. . .									
場内管路工					式	1			
作業土木					式	1			
床掘				. . .	m3				
. . .					式	1			
場内・進入道路工					式	1			
. . .									
. . .									
場内植栽工					式	1			
. . .									
. . .									
場内付帯工					式	1			
. . .									
共通仮設費（積上分）					式	1			
. . .									
直接工事費					式	1			

設計内訳書

※必要に応じ、項目、工種、種別、細別を追加し使用すること。

項目 [L1]	工種 [L2]	種別 [L3]	細別 [L4]	規格	単位	数量	単価	金額	備考
．．．									
揚排水ポンプ設備製作					式	1			
主ポンプ設備					式	1			
主ポンプ				．．．	台	・			
間接労務費					式	1			
純製作費									
工場管理費					式	1			
製作原価									
．．．					式	1			
揚排水ポンプ設備輸送工					式	1			
．．．									
．．．					式	1			
揚排水ポンプ設備据付					式	1			
．．．					式	1			
．．．									
共通仮設費（積上）					式	1			
．．．									
共通仮設費					式	1			
現場管理費					式	1			
据付間接費					式	1			
設計技術費					式	1			
一般管理費等					式	1			
機械設備工事価格					式	1			

※必要に応じ、項目、工種、種別、細別を追加し使用すること。

項目	工種	種別	細別	規格	単位	数量	単価	金額	備考
[L1]	[L2]	[L3]	[L4]						
．．．									
揚排水機場電気設備工					式	1			
高圧受電設備					式	1			
高圧気柱開閉器				．．．	台	・			
．．．					式	1			
揚排水機場電気設備工									
．．．					式	1			
直接工事費									
共通仮設費					式	1			
共通仮設費（率）									
純工事費					式	1			
現場管理費					式	1			
機器間接費					式	1			
．．．					式	1			
工事原価					式	1			
一般管理費等									
電気・計装設備工事価格					式	1			

業 務 工 程 表

北海道公営企業管理者 様

入札参加希望者名

事業期間

から
まで

事業名 苫小牧地区工業用水道配水施設建設事業（中継ポンプ場建設）

上記事業について、次のとおり工程表を作成したので提出します。

令和 年度

[illegible]

業務名	
-----	--

添付様式2

内訳書

内-__号								
名称	規格／条件	単位	数量	単価	金額			摘要
合 計								

業務名	
-----	--

添付様式3

単価表

単-__号									
名称規格	○○○○			単位	○	数量	1	単価	
名称		規格／条件	単位	数量	単価		金額		摘要
計									
単価									円／○

業務名	
-----	--

レベル1 (工事区分)	○○○○○	レベル2 (工 種)	●●●●●
----------------	-------	---------------	-------

数 量 集 計 表

レベル3 (種 別) レベル4 (細 目)	レベル5 (規 格)	レベル6 (積算要素)	積算用 単位	数 量 区 分					設計数量					内 訳 数 量 表	備 考
									R6	R7	R8	R9			
◇◇◇◇◇															
□□□□□					■	■	■	■	■	内数 ・	...
				...											
△△△△△					■	■	■	■	■		...
				...											
.....					■	■	■	■	■		...
				...											
◆◆◆◆◆															
■ ■ ■ ■ ■					■	■	■	■	■	内数 ・	...
				...											
▲▲▲▲▲					■	■	■	■	■		...
				...											
.....					■	■	■	■	■		...
				...											

業務名

添付様式5

内数・◇◇◇◇◇

内 訳 数 量 表

項 目	規 格	数 量 区 分	単 位	数 量		備 考
				全 体	1・・・当り	
□□□□□	...		・	・	・	内数・・・
△△△△△	...		・	・	・	
.....	...		・	・	・	

内数・◆◆◆◆◆

内 訳 数 量 表

項 目	規 格	数 量 区 分	単 位	数 量		備 考
				全 体	1・・・当り	
■ ■ ■ ■ ■	...		・	・	・	
▲ ▲ ▲ ▲ ▲	...		・	・	・	
.....	...		・	・	・	

内数・・・□□□□□

内 訳 数 量 表

項 目	規 格	数 量 区 分	単 位	数 量		備 考
				全 体	1・・・当り	
.....	...		・	・	・	...
.....	...		・	・	・	...
.....	...		・	・	・	...

業務名

添付様式6

積算単価一覧表

番号	品名(資材名)	形状・寸法・規格	単位	刊行物名(年・月)	頁数	金額(円)	平均価格(円)	積算単価(円)	備考
[刊行物単価比較による積算単価]									
刊-1									
刊-2									
刊-3									
...									
[実勢価格による積算単価]									
実勢-1									
実勢-2									
...									
[実績価格による積算単価]									
実績-1									
実績-2									
...									

※刊行物とは、「積算資料(積算資料電子版又は、別冊(PDF版)を含む)」、「土木施工単価」、「建築施工単価」、「建設物価(Web建設物価版を含む)」、「土木コスト情報」、「建築コスト情報」をいう。

※刊行物名(年・月)頁数 欄には、参照した刊行物名、頁数等を記載すること。(記載例 積算資料2024.8 P123、建築コスト情報 2024.夏 P55等)

※刊行物単価比較による積算単価は、2調査機関の刊行物に実勢価格が掲載されている場合は、平均価格を積算単価とすること。また、1調査機関のみに掲載されている場合はその価格を採用すること。

※有効桁数の考え方及び端数処理については、適用する積算基準等によること。

※本表は、適宜行を追加し、作成すること。

※本表は別記3-1,2,4,5,6号の様式毎に添付すること。

記載例

業務名	施工業務(機械設備)
-----	------------

内訳書

設計内訳書に記載した、
関連業務名を記載すること。

内-1号							
名称	規格／条件	単位	数量	単価	金額		摘要
ポンプ設備据付材料費	○○○○○○○○○ 同一業務内で重複が発生しない ように内訳書番号（内-○号）を 設定すること。	式		単-1号
付帯設備(天井クレーン) 据付材料 費(ポンプ)	○○○○○○○○○	式	単価表等の単価資料との 関連を明示すること。	単-2号
据付補助材料費	○○○○○○○○○	式		単-3号
ポンプ据付(総合)	○○○○○○○○○	式		単-4号
合 計				

業務名	施工業務(機械設備)
-----	------------

設計内訳書に記載した、
関連業務名を記載すること。

単-1号

同一業務内で重複が発生しない
ように単価表番号(単-○号)を
設定すること。

名称	ポンプ設備据付材料費
規格	○○○○○○○○

内訳書の名称及び規格を記載すること。

単価表

単-1号									
名 称		ポンプ設備据付材料費		同一業務内で重複が発生しないように単価表番号（単-○号）を設定すること。		単位		式	
規 格		○○○○○○○○		内訳書の名称及び規格を記載すること。		数量		単 価	
名称		規格／条件		単位		数量		単価	
ポンプ設備据付		○○○○○○○○		台		
天井クレーン据付		○○○○○○○○		台		
計								
単価								
								円／式	

業務名	施工業務(機械設備)		
レベル1 (工事区分)	据付工	レベル2 (工種)	揚排水ポンプ設備据付

設計内訳書に記載した、
関連業務名を記載すること。

数量集計表

レベル3 (種 別) レベル4 (細 目)	レベル5 (規 格)	レベル6 (積算要素)	積算用 単位	数 量 区 分					設計数量					内 訳 数 量 表	備 考		
									R6	R7	R8	R9					
揚排水ポンプ据付工																	
据付(揚排水ポンプ)	〇〇〇〇〇〇〇	ポンプ据え付け材 料費	式	ポンプ形式	原動機種別	小配管材質	受電電圧	ポンプ設備据付労務費	・	・	・	・	・				
				〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	・・・									
		付帯設備(天井ク レーン)据付材料費	式	付帯設備(天井クレーン)据付材料費						・	・	・	・	・			
				・・・													
		据付補助材料費	式	工種	揚排水設備区分	据付労務費				・	・	・	・	・			
				〇〇〇〇	〇〇〇〇	・・・											
		ポンプ据付(総合) (ポンプ設備据付)	式	連続発注による工数補正	ポンプ形式	ポンプ吐出量(m3/min)	主ポンプ駆動用原動機種別	給水方式	・	・	・	・	・				
				〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇									
				ポンプ据え付け台数													
				・・・													
		ポンプ据付(総合) (天井クレーン据 付)		形式	定格荷重					・	・	・	・	・			
				〇〇〇〇	〇〇〇〇												

数量区分を記載すること。
[機械設備工事（別表6）の活用を例示]

業務名	設計業務(建築)		
レベル1 (工事区分)	設計業務(建築)	レベル2 (工種)	直接人件費

設計内訳書に記載した、
関連業務名を記載すること。

数量集計表

レベル3 (種 別) レベル4 (細 目)	レベル5 (規 格)	レベル6 (積算要素)	積算用 単位	数 量 区 分					設計数量					内 訳 数 量 表	備 考
									R6	R7	R8	R9			
直接人件費															
設計(基本・実施)			式	類型	用途等	床面積(m2)	難易度係数		1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	内数1	
				第2号	第2類								
追加業務			式						1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	内数2	

数量集計表の下位のレベルに内訳数量表を利用する場合は、同一業務内で重複が発生しないように内訳数量表番号(内数〇)を設定する。

業務名	設計業務(建築)		
レベル1 (工事区分)	設計業務(建築)	レベル2 (工種)	特別経費

設計内訳書に記載した、
関連業務名を記載すること。

数量集計表

レベル3 (種 別) レベル4 (細 目)	レベル5 (規 格)	レベル6 (積算要素)	積算用 単位	数 量 区 分					設計数量					内 訳 数 量 表	備 考	
									R6	R7	R8	R9				
旅費交通費等																
旅費交通費			式						1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	内数3		
申請手数料			式						1.0	0.0	1.0	0.0	0.0			

業務名	設計業務(建築)
-----	----------

設計内訳書に記載した、
関連業務名を記載すること。

内数1 設計(基本・実施)

内 訳 数 量 表

項 目	規 格	数 量 区 分	単 位	数 量		備 考
				全 体	1 式 当り	
技師(C)	〇〇〇〇		人・時間	.	.	

内数2 追加業務

内 訳 数 量 表

項 目	規 格	数 量 区 分	単 位	数 量		備 考
				全 体	1 式 当り	
技師(C)	〇〇〇〇			.	.	

内数3 旅費交通費

更に下位のレベルで内訳数量表を利用したい場合は、内訳数量表番号(内数〇-〇)を設定すること。

内 訳 数 量 表

項 目	規 格	数 量 区 分	単 位	数 量		備 考
				全 体	1 式 当り	
旅費	〇〇〇〇		式	.	.	内数3-1
交通費	〇〇〇〇		式	.	.	内数3-2

内数3-1 旅費

内 訳 数 量 表

項 目	規 格	数 量 区 分	単 位	数 量		備 考
				全 体	1 式 当り	
旅行雑費	技師(C)		日	.	.	

内数3-2 交通費

内 訳 数 量 表

項 目	規 格	数 量 区 分	単 位	数 量		備 考
				全 体	1 式 当り	
交通費	技師(C)		往復	.	.	